



TITLE:

京大広報 No. 515

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 515. 京大広報 1997, 515: 270-287

ISSUE DATE:

1997-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209230>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.



京大広報

No. 515

1997. 7

目次

副学長制の設置及び学生部の事務局への

一元化をめぐって 総長 井村 裕夫 ……271

〈大学の動き〉

井村総長のアメリカ合衆国訪問 ……272

平成9年5月博士学位授与式 ……272

永年勤続者表彰式の挙行 ……272

外国人留学生歓迎パーティー ……273

人権に関する研修会の開催 ……274

〈部局の動き〉

木質科学研究所にニュージーランド材を

使った木橋が完成 ……274

平成9年総合博物館春季企画展の終了報告 ……275

〈京都大学の環境保全への取り組み〉

一環境保全委員会一 ……275

〈日誌〉 ……276

〈栄誉〉

井村総長がアメリカ合衆国内分泌学会

Robert H. Williams賞Distinguished Leadership

Awardを受賞 ……276

〈保健コーナー〉

ドライアイ (DRY EYE) ……277

〈随想〉

講義雑感 名誉教授 高橋 英一 ……278

〈洛書〉

がんの免疫療法によせて 難波雄二郎 ……279

〈公開講座〉

人文科学研究所夏期公開講座

「メイド・イン・ジャパンの亜細亜」 ……280



木質科学研究所にニュージーランド材を使った木橋が完成
—関連記事本文274ページ—

大学院農学研究科生物資源経済学専攻公開講座

「第61回農林経済・経営・簿記講習会」 ……281

数理解析研究所公開講座

「数学入門公開講座」 ……282

防災研究所公開講座「災害の予知と予測」

—その現状と将来の展望— ……283

農学部附属演習林公開講座 ……284

「森のしくみと働き—芦生演習林への招待—」

霊長類研究所公開講座

「霊長類の進化」 ……285

—終了報告—

第1回総合博物館公開講座

「博物学の展望—21世紀へ向けて—」 ……286

〈お知らせ〉

「白馬山の家」の夏季開設 ……286

「白浜海の家」の利用 ……287

体育館附設プールの夏季利用 ……287

京都大学広報委員会

副学長制の設置及び学生部の事務局への一元化をめぐる

京都大学評議会は、去る6月24日開催の会議で、明年度の概算要求事項の一つとして副学長制の設置及び学生部の事務局への一元化について論議し、これを取り上げることに決定しました。その経緯と内容について述べます。

国立大学においては、現在教育改革、機構改革の進行に伴って学部・学部の枠を越えた業務が増加し、また将来構想、施設整備など大学全体として取り組まねばならない課題が増えています。さらに、大学への理解と支持を得るため、対外的な活動の必要性も増えています。従って学長を補佐するスタッフとして多くの大学で副学長制が導入されて参りました。

京都大学においては平成6年に第1回ワーキンググループを発足させ、この問題についての検討を依頼しました。その結果、取り敢えず学内措置によって総長特別補佐の制度を設けるべきであるとの提案がなされ（京大広報1994.12.15No.477参照）、平成7年度よりこの制度が発足しました（学報平成7.2.17第4550号参照）。そして現在まで計4人の方に、この職を務めて頂きました。しかし学内措置の制度では様々な制約があるため、平成8年末に再度ワーキンググループを設け、副学長への移行の可否について検討して頂きました。その結果2名の副学長を置くべきであるという点で、意見の一致を見ました。

二人の副学長のうち一人には、学生部の重要性を考慮して現在の学生部長の仕事を引き継いで頂き、より広い立場から学生の教育・厚生に携わって頂くのが妥当と判断致しました。もう一人の副学長には、将来構想も含め研究の推進、大学の運営を分担して頂く予定であります。

次に事務機構のあり方については、現在のように学生部事務を全体の事務機構と離しておく二元案と、全体を統一する一元案とが考えられました。これについて種々検討の上、最終的に一元化する案で概算要求をすることと致しました。その理由は、第9次定員削減をはじめ、事務職員の削減が強く求められている中で、二元案を続けると学生部、事務局の両方が弱体化し、学生へのサービスが低下することが心配されるからであります。とくに、入学者選抜方法の改善、学部学生短期交流計画の推進、国際交流の活性化など、教育、国際交流などに関する事務が今後増加することが予想されますので、事務局

全体の枠の中で、学生部の充実を考えるべきであると判断致しました。なお、現在の学生部次長は学生部長に振り替えられますが、これは名称だけの変更であります。事務職の学生部長が学生部の責任者となるのではなく、あくまでも副学長の一人が責任を負うこととなります。

副学長の一人は従来の学生部長室で執務し、従来通り学生諸君との密接な関係を維持することに努め、更に、学生部委員会を充実させて学生諸君との接点を増やすことができると思います。従って京都大学における大学と学生諸君の関係は、少しも変わるものではなく、今後とも学生部が窓口となって話し合いを行うことになります。

現在国立大学は、行財政改革が進む中で大きい試練の時期を迎えており、今後どのような変化が起こるか予測できません。こうした時こそ本学においても総長を補佐する体制を確立し、新しい事態へ対応できる準備が必要であります。

なお、この案はあくまでも概算要求の段階のものであり、それが認められるか否かはまだ明らかではありません。全学の構成員が、以上のような事情を賢察されんことを希望致します。

平成9年7月2日

総長 井村 裕夫

大学の動き

井村総長のアメリカ合衆国訪問

井村総長は去る6月9日から6月15日までの間、アメリカ合衆国に出張した。

ミネソタ大学において同大学医学部長と高等教育及び学術交流に関して意見交換するなど学術交流に関する調査を行った。

続いて、同国内分泌学会に出席するとともに、6月13日に同学会1997年度Robert H. Williams賞授賞式に出席し、Distinguished Leadership Awardを受賞した。

平成9年5月博士学位授与式

5月28日（水）午前10時30分から、京大会館において、各研究科長をはじめ総長特別補佐、学生部長、事務局長出席のもと、平成9年5月博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時15分終了した。

本年5月の学位授与数は、課程博士37名、論文博士30名の計67名であった。

各研究科別内訳は次のとおりである。

研 究 科	課程博士	論文博士	合 計
教 育 学 研 究 科	—	2	2
経 済 学 研 究 科	1	1	2
理 学 研 究 科	7	1	8
医 学 研 究 科	19	4	23
薬 学 研 究 科	1	2	3
工 学 研 究 科	8	9	17
農 学 研 究 科	1	10	11
人間・環境学研究科	—	1	1

永年勤続者表彰式の挙行

6月23日（月）平成9年度京都大学永年勤続者表彰式が、部局長等関係者の出席を得て、京大会館において挙行された。

式典は、午前10時30分に始まり、永年勤続者の表彰、総長祝辞、永年勤続者代表の答辞をもって午前10時50分終了した。

本年表彰された方は201名で、うち30年勤続者は161名、20年勤続者は40名である。（永年勤続者の氏名は6月27日の学報第4633号に掲載している。）



外国人留学生歓迎パーティー

平成9年度入学の外国人留学生パーティーが、6月4日（水）午後6時から京大会館において外国人留学生、総長及び指導教官等約150名が出席して行われた。

パーティーは、井村総長の挨拶、新入留学生のスピーチ、宮崎学生部長の乾杯ではじまり終始なごやかな雰囲気の中に午後7時半すぎ閉会した。

なお、平成9年5月1日現在の大学の国（地域）別外国人留学生数は別表のとおりである。



国（地域）別外国人留学生数調

平成9年5月1日現在

地域	区 分 国名等	学部	大学院		研究 生等	計	地域	区 分 国名等	学部	大学院		研究 生等	計	地域	区 分 国名等	学部	大学院		研究 生等	計		
			修士	博士						修士	博士						修士	博士			修士	博士
ア ジ ア	バングラデシュ		3	10	2	15	ア フリ カ 州	アルジェリア				2	2	N I S 諸 国 (5)	ルーマニア	2		2	2	6		
	カンボジア	2			1	3		カメルーン		1		1	1		3	スペイン		1	1	1	3	
	中国	48	82	144	92	366		コートジボワール		2		2				スイス				1	1	
	インド			2	1	3		エジプト			3	3				連 合 王 国			2	6	8	
	インドネシア	3	6	30	6	45		エチオピア		1		1				ユーゴスラビア				1	1	
	イラン	1		3		4		ケニア			3	1	4			ベラルーシ					1	1
	イスラエル				1	1		マダガスカル			2	2				グルジア			1	1	1	
	ヨルダン				1	1		マリ		1		1	1			カザフスタン		1	1	1	3	
	韓国	7	36	86	42	171		モロッコ	4			4				ロシア			3	2	5	
	マレーシア	9	2	4	1	16		南アフリカ			1	1				ウクライナ			1	1	1	
ア 州	モンゴル	2		4		6	スーダン		1	2	3			カナダ	2		1	7	10			
	ミャンマー		1	2	2	5	タンザニア			4	1	5		コスタリカ		1			1			
	ネパール	1		1	2	4	オーストリア				2	2		ドミニカ					1	1		
	パキスタン		1	3	1	5	ベルギー			1		1		メキシコ		1	4		5			
	フィリピン	6		7		13	ブルガリア		1	2	2	5		アメリカ		5	7	16	28			
	サウジアラビア		1			1	チェコ			2	2	4		アルゼンチン	2	1			3			
	シンガポール	6	3		1	10	デンマーク			1	1	1		ブラジル	1	2	5		8			
	スリランカ				2	2	フランス		2	2	2	6		チリ			1	1	1			
	タイ	2	13	10	4	29	ドイツ		1	2	7	10		コロンビア			3	1	4			
	トルコ			5	2	7	ギリシャ		1	1	1	3		エクアドル				1	1			
(23)	ベトナム	1		3	1	5	ハンガリー				2	2		パラグアイ			1			1		
	香港		2	1	1	4	アイルランド			1		1		ペルー			1	1		2		
	台湾	1	19	25	26	71	イタリア		3	1		4		ベネズエラ			1	2	3			
	オーストラリア	5	2		3	10	オランダ				3	3		計 (73 か国)	108	198	406	262	974			
	ニュージーランド	3	1	1	1	6	ポーランド				2	2										

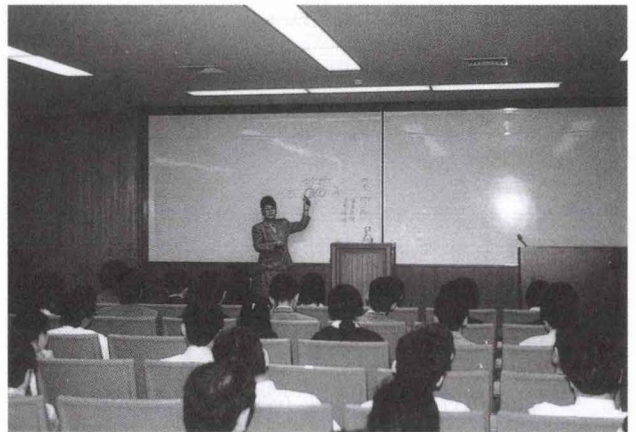
(注) 1. 国（地域）名は通称による。

2. 国名の並べ方、国および主な地域の各大陸別分類は、国連発行「統計年鑑」（NIS 諸国を除く）による。（学生部）

人権に関する研修会の開催

平成9年6月6日（金）午後3時から、附属図書館（3階）AVホールにおいて、人権に関する研修会が開催され、約110名の参加者が熱心に聴講した。

本研修会は、学内外から講師を迎え、本学教職員を対象として同和・人権問題の啓蒙を図る目的で、毎年、春秋の2回開催しており、今回は弁護士の徳矢典子先生を迎え、「性差別とプライバシー」というテーマで講演が行われた。



部局の動き

木質科学研究所にニュージーランド材を使った木橋が完成

この度、木質科学研究所の木質材料実験棟（木質ホール）の一部に木造の架橋構造物（木橋）が完成し、ニュージーランド総領事館員、ニュージーランド木材工業界の代表者などの出席のもと、6月16日（月）にその披露が行われた。この木橋はニュージーランド木材工業協会の寄付によるもので、ニュージーランドの植林地で伐採したラジアータ松の集成材を現地で部材化し、木質科学研究所内で組み立てたものである。

この木橋は長さ10.5m、幅4mのもので、地上5.5mの位置に備え付けられており、木橋は、構造部材の環境に対する耐久性、接合部の耐久性や安定性、生物的劣化に対する抵抗性など、主として屋外暴露条件下での木造建築物の耐久性を試験することを目的としてつくられている。既設の木質ホールとあわせて木造建物の種々の評価試験におおいに役立つものと期待される。

木質科学研究所はニュージーランド林業研究所と学術交流協定を結ぶなど、同国研究機関との学術交流を進めており、この木橋の建設はその活動の一つとなるものである。この橋が文字どおり当研究所と



ニュージーランドの研究機関との交流の架け橋になることを望んでいる。（木質科学研究所）

平成9年総合博物館春季企画展の終了報告

平成9年春季企画展が、6月14日（土）終了した。展示期間中の、入館者数は次のとおりである。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
4/15 ～ 6/14	企画展「王者の武装－5世紀の金工技術－」 常設展「日本古代文化の展開と東アジア」 常設展「日本の古文書」	人 1,736	人 325	人 191	人 497	人 2,749

（特別観覧とは学術研究，視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。）

（総合博物館）

京都大学の環境保全への取り組み

——環境保全委員会——

21世紀を目前にひかえ、環境問題は人類にとって地球規模の重要課題となってきた。最近、環境問題の解決をめざして、民間企業をはじめ自治体でも環境管理システムを採用する動きが盛んとなってきた。即ち、自らが引き起こしている多種多様な環境負荷を最大限の努力と配慮でもって低減することにより、社会の一員として環境改善への責任を果たしていこうとするものである。

環境問題に対処するため、如何に自己管理している組織体であるかが、組織体の活動を評価する上で考慮され始めている。ISO（国際標準化機構）14000シリーズはその具体的要請である。京都府でも条例によって府内全ての事業所に対して環境管理の推進を求めている。また京都市の行動計画でも特に大学の役割と努力を強く要請している。

京都大学では20年以上も前に全国に先駆けて「環境保全センター」を設立し、教育・研究過程で排出される廃棄物を学内で適正に処理すべく積極的に対処してきた。「環境汚染物を排出する者は、自らの手によって責任を持って汚染物を処理すべきである」という環境保全の原点を実行してきたものである。さらに、今後は学内で日常的に排出される生活

廃棄物についても、同様に対処されるべき問題である。環境問題の重要性を認識しうる人材の育成機関として、また環境保全の意義・方法論そのものを研究する機関として、本学に託され課せられた期待と責任は重い。

京都大学としては、自ら率先して環境への影響を把握し、社会に対する責任を全うすべく、環境保全へ向けての改善を自主的に進めていくシステムの構築が求められている。そのためには大学の全構成員が参加した活動として進めていく必要があり、教職員だけでなく、学生や生協職員なども含めた全学一致の体制で進められることが重要である。

そこで、環境保全委員会は本年4月に環境保全活動評価小委員会を設立し、当面以下のような項目について検討をはじめている。

- （1）環境問題に対する京都大学の基本姿勢を明確にすること（例えば環境憲章の作成など）
- （2）京都大学の環境評価プログラムの検討（環境管理の体制，環境負荷の把握，環境美化対策，環境配慮行動の実施など）
- （3）環境意識の向上方法について（環境教育の充実，環境情報の提供，環境美化運動，広

報、啓発)

先に述べたように、本学が本来の教育・研究活動を活発に行う一方で環境保全への積極的な取り組みを行うためには、何よりも計画づくりから実行、評価などの全ての段階において本学構成員の積極的な参加が必要であると、環境保全委員会では考えてい

る。

そこで京都大学の環境保全への取り組みについて、広く学内の意見に耳を傾けるために、また委員会の取り組みの状況をお知らせするためにも、インターネット上に環境保全委員会のホームページ開設を準備している。

日誌

1997年5月1日～5月31日

5月1日 総長、大学院生協議会と会見

12日 京都大学春秋講義 月曜講義 第1日
(以後の日程は、19日、26日、6月2日、9日)

13日 評議会

✧ 教育課程委員会

✧ 組換えDNA実験安全委員会

14日 発明審議委員会

✧ 京都大学春秋講義 水曜講義 第1日
(以後の日程は、21日、28日、6月4日、11日)

20日 カナダ国 マギル大学 T. H. Chan副学
長他1名来学、総長特別補佐及び関係教
官と懇談

21日 国際交流委員会

23日 新キャンパス委員会

✧ 附属図書館商議会

27日 評議会

✧ 大学院審議会

28日 学位授与式

栄誉

井村総長がアメリカ合衆国内分泌学会Robert H. Williams賞 Distinguished Leadership Awardを受賞

このたび、井村総長に対して、アメリカ合衆国内分泌学会から1997年度Robert H. Williams賞Distinguished Leadership Awardが授与され、その授賞式がミネアポリスコンベンションセンターで行われた。

同賞は、内分泌学者のRobert H. Williamsによって1970年創設されたもので、内分泌学の研究、後進

の育成、学会活動等の功績があった者に対し、毎年1名に贈られる。井村総長は、下垂体ホルモン、心血管系ホルモン、膵・消化管ホルモンなど内分泌学の広い領域にわたる新しい研究分野の開拓と国際学会等での活動が評価されたものであり、アメリカ合衆国在住者以外の受賞者は、井村総長が初めてである。

保健コーナー

ドライアイ (DRY EYE)

保健診療所の眼科を訪れる人の多くが、眼が疲れる、なんとなく眼が痛い、充血しやすい、と訴えるが、通常の検査により特に異常が認められない。この眼科的な不定愁訴の原因の一つが、ドライアイによるものと考えられる。特に、若い学生はコンタクトレンズ (CL) の使用者が多く、CLはドライアイの主要な原因となっていると考えられている。学習や事務の作業環境が最近とみに変化し、コンピュータ・モニターに長時間向かうことが多くなったことも瞬きの回数低下により涙液減少が生じ、ドライアイの一因となっている。最近、このドライアイの重要性の認識が眼科医の間で広がりつつあるので概説したい。

ドライアイとは、角膜表面を覆う涙の膜 (涙液層) が様々な原因で保てなくなって起きるとされる。要するに角膜表面が“乾く”のである。実は涙は、常に分泌され角膜表面に涙液層を形成する働きをする基礎分泌と、感動的な映画を見たり悲しい目に会ったときに出る反射性分泌がある。意識しないが涙は常に基礎分泌され、涙液層が角膜表面を乾燥や異物から守っているのである。角膜表面の角膜上皮細胞には知覚神経が発達しているため乾燥を痛みとして感じるし、反射的に基礎分泌を増やそうとして瞬きが多くなったり、目を開けているのが辛くなる。空気中の杉花粉やタバコの煙が角膜に付くと、涙が洗い流してくれるのだが、ドライアイではそれが遅れ杉花粉の影響が強くなったりタバコの煙が目にしみる。かくして目の表面の環境が悪くなって、慢性的に白目の充血を引き起こす。

ドライアイがひどくなると角膜上皮障害を来し外来にて発見され治療対象になるが、軽い場合は不定愁訴が生じるのみで通常の検査では異常が認められない。保健診療所を訪れる多くの方は、この軽いドライアイであると考えている。さて、その治療となると、症状が軽いだけになかなか難しい。涙の量を増やす薬は現在の所ほとんど無い。コンタクトレンズ使用やコンピュータ作業をやめるように言うわけにはいかない。そこで、一般には次の様な治療が考えうる。

- 1) 人工涙液点眼…目薬により涙を補うという発想である。難点は効果が一時的であること、点眼

剤に含まれるカビ等を防ぐための防腐剤がドライアイの人の角膜上皮に悪いことである。

- 2) 涙点閉鎖…涙の鼻への逃げ口を縫合またはシリコンプラグで閉鎖し、涙の排出を減らすという考え方だが、重症者向けである。
- 3) ドライアイ眼鏡…プラスチックで囲まれた眼鏡 (ゴーグルのような) で目の周囲を覆い、目の付近の湿度を上げるもの。まだ見慣れないので軽度のドライアイの若い学生には抵抗があるかも知れない。通常の眼鏡でも眼鏡なしより効果があるようである。
- 4) 目を乾燥させない環境を作る…暖房の効いた部屋やデパートなどは湿度が低いためドライアイの症状が強まる。加湿器などで部屋の湿度コントロールを行う。

結局、保健診療所に多い、ごく軽度で若い人のドライアイに適した対応策は、ドライアイという考え方を知ってもらい、部屋の湿度調整をしたり、空気の乾燥した場所には長時間いないなどの、自己防衛が最も効果があるように考える。その次に防腐剤を含まない点眼薬を自覚症状の強いときに使用することが良いと思われる。防腐剤を含まない点眼薬はソフトコンタクト装用者用として薬局で買える。現段階では、ドライアイにきちんと対応できている医師および医療施設はまだ少ない。マルチメディア化が進み、目を通して情報をやり取りする機会がますます増えるであろう将来に対し、医師はもちろんのこと、職場管理者、そして一人一人がドライアイに対する十分な知識と対応策を持つ必要があるであろう。

(保健診療所 板谷 正紀)

公開講座

人文科学研究所夏期公開講座 メイド・イン・ジャパンの^{あじあ}亜細亜

人文科学研究所では来る7月4日、5日の両日に、「メイド・イン・ジャパンの^{あじあ}亜細亜」と題する夏期公開講座を開催いたします。

人文科学研究所では共同研究の一環として1988年以来、「近代日本のアジア認識」「近代東アジア世界の構造連関」をテーマに研究を続けてまいりました。そして、昨年度からは「日本・中国・朝鮮間の相互認識と誤解の表象」に関する共同研究を進めてまいりました。本公開講座は、以上のような一連の研究活動の成果を、市民の皆様にお伝えしようと企画したものです。日本人のアジアについてのイメージがいかに形成され、それがどう表現されてきたのか、また日本人はアジアとどうかかわってきたのか、などを多面的に検証する予定です。

近年、アジアはめざましい経済発展を遂げ、世界の目がこの地域に注がれ、21世紀はアジアの世紀になるだろうと言われています。それだけになおさら、日本人はこの地域についていかに認識してきたのか、そして今後どのように認識していけばいいのか、を自ら省みる必要があるように思われます。今回の公開講座がその一助になればと願っております。

発表題目などの詳細は以下の通りです。

日 程

7月4日 13:30～17:00

アジア伝説－神功皇后からハリマオまで－	山室信一	人文科学研究所助教授
江戸期庶民の朝鮮像	ロナルド・トビ	イリノイ大学教授 (前・人文科学研究所客員教授)

7月5日 13:30～17:00

明治漢学者のみた儒教の祖国	陶 徳民	関西大学助教授 (人文科学研究所非常勤講師)
日本語論のなかのアジア像	安田敏朗	人文科学研究所助手

会 場 京都市左京区吉田牛ノ宮町

京都大学人文科学研究所本館二階 大会議室

(市バス東一条下車 車でのご来場はご遠慮ください)

受講資格 制限はありません。

受 講 料 無料

問い合わせ先 京都大学人文科学研究所 庶務掛 075-753-6902

大学院農学研究科生物資源経済学専攻公開講座 第61回農林経済・経営・簿記講習会

大学院農学研究科生物資源経済学専攻では、来る7月19日～7月23日の五日間にわたって、農業関係者、若手研究者、学生の方々を対象に、農業簿記・農業経営・地域農業に関わる理論と実務の習得、また開発途上国農業・農村の発展問題についての認識の獲得をねらいとした講習会を、下記の要領で開催します。

記

★科目内容

第一クラス：農業経営の改善と複式簿記：原理と応用

稲本志良 教授，小田滋晃 助教授

第二クラス：地域農業および農業経営の現代的課題と計画・管理の方策

藤谷築次 教授，加賀爪 優 教授，新山陽子 助教授

第三クラス：開発途上諸国の農業・農村発展問題－日本・欧米とのかかわり－

辻井 博 教授，浅見淳之 講師，中田義昭 助手

共通講義：日本農業の基本方向について－新基本法のあり方と関連して－

祖田 修 教授

歴史からみる日本農業と農村－新基本法のあり方と関連して－

野田公夫 教授

★対 象：行政・団体職員，高等学校教諭，農業者，若手研究者，大学院・学部学生

★期 日：平成9年7月19日（土）～7月23日（水）（ただし第3クラスは21日（月）まで）

★場 所：京都大学農学部講義室

★受講料：第1クラス・第2クラス各14,000円，第3クラス10,000円（学割あり）

★申込方法：開催要領および申込用紙を下記まで請求してください。申込締切日は**6月30日**です。

なお，クラス定員は，第1クラス・第2クラス各40名，第3クラス20名（先着順で受付）となっています。

問い合わせ・申込先 〒606-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻

「公開講座」係

Tel：075-753-6303 Fax：075-753-6297

数 理 解 析 研 究 所 数 学 入 門 公 開 講 座

数理解析研究所では、来る8月4日（月）から8月8日（金）の5日間社会人、中・高校教師、学生等一般人を対象に「数学入門公開講座」を、下記のとおり開催します。

記

8月4日（月）10:30～11:45 代数曲面の世界 中山 昇 助教授

2変数の多項式 $F(X, Y) = 0$ で定義された図形という、たとえば楕円、放物線、双曲線、いろいろな思い浮かびます。代数幾何学ではもっと一般に n 変数の k 個の多項式：の共通零点集合を研究しています。代数曲線、代数曲面はこのような図形（代数多様体）の中でそれぞれ1次元、2次元のものです。代数曲線は種類によって大きく性格が異なります。代数曲面では種数だけでは足りなくて小平次元を考えます。今回は代数曲面の小平次元による分類の概略を紹介します。

13:00～14:15 数値積分と複素関数論 森 正武 教授

台形公式、シンプソン公式、ガウス公式などはコンピュータ出現のはるか以前に確立した数値積分の基本的な手法であり、その後、数学解析の対象としては比較的地味な存在であった。しかし、解析の道具として複素関数論を導入すると、状況は一変する。各々の公式は複素対数関数の有理関数近似によって導かれ、また誤差解析もグラフィックスと組み合わせて魅力ある対象となる。さらに、新しい強力な数値積分公式を次々と創り出すことができる。

この講義では、数値積分と複素関数論という二つの古典的テーマにコンピュータを組み合わせ、実を結んだ、応用数理の新しい成果を紹介する。

15:00～16:00 超対称性の物理と数学 河合 俊哉 助教授

超対称性（supersymmetry）とはボゾン（互いに可換な粒子）とフェルミオン（互いに反可換な粒子）の間に成り立つ対称性であり、現在の理論物理の様々な分野で活躍している。また数学との関係も極めて密接である。本講座では、この超対称性の入門的解説を中心に行なうとともに、その応用にも触れたいと思っている。

8月8日（金）

◆会 場 京都市左京区北白川追分町

京都大学数理解析研究所 4 階大講演室（※自家用車での来場はご遠慮ください。）

◆定 員 120名（先着順）

◆受講料 7,400 円（テキスト代を含め全講義を通しての受講料で消費税を含みます。）

受講決定通知後に受講料を納付願います。）

◆申込方法

(1) 期 限 平成9年7月10日（木）午後5時（必着）

(2) 手 続 官製往復ハガキ（1名につき1枚限り、複数枚の応募は無効）に

①氏名 ②住所（電話番号も記入のこと） ③年齢

④職業（〇〇大学〇回生、〇〇高校数学担当教員、主婦など）

⑤申し込みの動機 を

明記のうえ下記あてに申し込んでください。なお、返信ハガキは、採否の通知に用いますから、必ず郵便番号・住所・氏名を記入してください。

〒 606-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学数理解析研究所

「数学入門公開講座」係（電話（075）753-7202）

防災研究所公開講座（第8回） “災害の予知と予測” ーその現状と将来の展望ー

防災研究所は、昭和26年に設立以来、自然災害に関する基礎研究及び災害対策等に寄与するための応用研究を行ってきましたが、平成8年度より全国共同利用研究所として新たな出発を図り、災害の学理と防災のための総合的な方策について研究を推進しています。

当研究所では、災害に関する研究成果を広くご紹介するため平成2年度から公開講座を実施していますが、今年度は「災害の予知と予測」を基本テーマとして、その現状と将来の展望をご紹介します。一般市民をはじめとして災害に関心をお持ちの方々のご参加を歓迎します。

講座内容

災害による被害を軽減するためには、災害の発生を予知あるいは予測することが重要であります。このため、地震、地盤災害、気象災害及び水災害の予知あるいは予測を取り上げ、その現状と将来の展望をご紹介します。「現在どこまで予知・予測できるのか」、「将来どこまで予知・予測できるようになるのか」について、パネルディスカッションを行います。

講義日程

8月12日（火）

9:30～10:00	開 講 の 辞	防災研究所長 今 本 博 健
10:00～11:00	地震の予知と予測 ー地震予知のむずかしさとこれに立ち向かう研究の現状ー	教 授 田 中 寅 夫
11:00～12:00	地盤災害の予知と予測 ー地すべり・土石流災害を防ぐためにー	教 授 佐 々 恭 二
13:00～14:00	気象災害の予知と予測 ー風 を 予 測 す るー	助教授 石 川 裕 彦
14:00～15:00	水災害の予知と予測 ーソ フ ト イ ン フ ラ と 流 水 管 理ー	教 授 池 淵 周 一
15:15～16:45	パネルディスカッション ー予知・予測の現状と将来についてー	
	コーディネーター	教 授 椎 葉 充 晴
	パネラー	教 授 田 中 寅 夫
	〃	教 授 佐 々 恭 二
	〃	助教授 石 川 裕 彦
	〃	教 授 池 淵 周 一
	〃	NHK解説委員 藤 吉 洋一郎

受講資格 特に問いません。

定 員 250名

受 講 料 5,400円

実施会場

大阪YMCA会館（大阪市西区土佐堀1-5-6） 2階ホール

問い合わせ

宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所総務課研究助成掛 ☎（0774）38-4010

農 学 部 附 属 演 習 林 公 開 講 座

森 の し く み と 働 き

－ 芦 生 演 習 林 へ の 招 待 －

農学部附属演習林では、来る8月21日、22日、23日に、広く一般市民を対象とする公開講座「森のしくみと働き－芦生演習林への招待－」を、下記のとおり開催します。

記

8月21日（木） 芦生の自然について（講義）

開講挨拶	教 授	竹 内 典 之
芦生演習林の概要	教 授	竹 内 典 之
日本の森林、芦生の森林	助 手	寄 元 道 徳
水、そして芦生の森	講 師	中 島 皇
芦生の樹木識別入門	技 官	登 尾 久 嗣

8月22日（金） 天然林内での講義並びに実習
(各班10人、5班の編成で行います)

	教 授	川 那 辺 三 郎
	教 授	竹 内 典 之
	教 授	大 畠 誠 一
	助 教 授	安 藤 信
	助 教 授	柴 田 昌 三
	講 師	西 村 和 雄
	講 師	中 島 皇
	助 手	寄 元 道 徳
	助 手	長 谷 川 尚 史
	助 手	中 西 麻 美
	助 手	濱 本 な お
	他	

8月23日（土） 森林と人間の関わり（講義）

マツ属の世界		
－マツとはどのような樹木か？－	教 授	大 畠 誠 一
芦生の小型哺乳類	助 手	本 川 雅 治
今、なぜ森林か？	講 師	西 村 和 雄
閉講挨拶	教 授	川 那 辺 三 郎

◆日 程：8月21日（木）13時～8月23日（土）12時（2泊3日）

◆場 所：芦生演習林

◆受講資格：制限はありません。

◆定 員：50名（応募者多数の場合は抽選）

◆受 講 料：7,400円（但し、宿泊費、交通費などは別途）

◆申込方法：官製往復はがき（1名につき1枚）に住所、氏名、年齢、職業と連絡先（電話番号）、交通手段（自家用車または路線バス使用）を記入し、返信用に郵便番号、宛名を記入のうえ7月18日（金）（必着）までにお申し込みください。

◆問い合わせ及び申込先

〒601-07 京都府北桑田郡美山町芦生 芦生演習林事務掛（TEL 0771-77-0322）

霊長類研究所公開講座「霊長類の進化」

霊長類研究所では、来る8月21日（木）22日（金）の2日間霊長類について興味のある一般の方々を対象にして、下記のとおり「霊長類の進化」に関する公開講座を開催します。

記

8月21日（木）

10:00～12:00

『霊長類研究へのDNAからのアプローチ』

竹 中 修 教授

13:00～15:00

『チンパンジーの知性と文化』

松 沢 哲 郎 教授

15:00～17:00

「形態・骨学実習」

毛 利 俊 雄 助手

「心理学実習」

友 永 雅 己 助教授

「サルの野外行動観察実習」

松 村 秀 一 助手

「遺伝学実習」

川 本 芳 助教授

8月22日（金）

10:00～12:00

『行動に関する情報伝達システムの進化』

---- 霊長類の系統をたどって』 田 中 伊知郎 COE研究員

13:00～15:00

『記憶能力と脳の進化』

櫻 井 芳 雄 助教授

15:00～17:00

「形態・骨学実習」

毛 利 俊 雄 助手

「心理学実習」

友 永 雅 己 助教授

「サルの野外行動観察実習」

松 村 秀 一 助手

「遺伝学実習」

川 本 芳 助教授

◆会 場 愛知県犬山市官林 京都大学霊長類研究所大会議室

（名古屋鉄道犬山駅下車 タクシーで5分、または徒歩で20分）

◆受講資格 霊長類について興味のある一般の方

◆定 員 70名（多数の場合は抽選で決定します）

なお、例年受講希望者が多いため、一昨年と昨年と続けて本公開講座を受講された方は、本年の申込みを御遠慮ください。

◆受 講 料 6,400円（受講決定通知後納付）

◆申込方法 官製往復葉書の発信用に次の事項を明記する。（申込は1人1葉とする。）

①「公開講座申込」の旨 ②住所 ③電話番号 ④氏名 ⑤年齢 ⑥職業（〇〇大学1回生、〇〇高校生物担当教員、主婦など）

返信用には住所と氏名を明記する。（受講申し込みの採否をお知らせします。）

◆申込締切 7月16日（水）（必着）

◆問い合わせ及び申し込み先

〒484 愛知県犬山市官林 京都大学霊長類研究所 「公開講座」係

電話（0568）63-0512 FAX（0568）63-0085

e-mail:shomu@smtp.pri.kyoto-u.ac.jp

http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html

—— 終了報告 ——

第1回総合博物館公開講座 「博物学の展望—21世紀へ向けて—」

公開講座「博物学の展望—21世紀へ向けて—」が5月10日・17日・24日・31日の各土曜日（午後1時30分から4時まで）に開催された。

今回の公開講座は総合博物館として、平成9年4月1日発足したことにともない一般市民を対象に、博物館館長と教授3名が講師となり、21世紀に博物学が果たすべき役割について、幅広い展望をこころみるものであった。

講義題目、講師は次のとおりであり、73名が受講した。

〔地球環境の未来と生物多様性〕

総合博物館 館長 河 野 昭 一

〔化石が語る地球の歴史〕

総合博物館 教授 大 野 照 文

〔海が語る地球の未来〕

総合博物館 教授 中 坊 徹 次

〔5万年前のヒトに学ぶ〕

総合博物館 教授 山 中 一 郎

（総合博物館）

お知らせ

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今夏も下記により開設しますので、ご利用ください。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つがいけ}梅池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山や避暑などに最適です。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくば}白馬山の家
2. 所 在 地 長野県北安曇郡小谷村大字^{あすみ おたり}千国^{ちくに}字柳久保乙869の2
(交通機関) JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「^{おや はら}親の原」下車、徒歩約20分
3. 開設期間 7月10日（木）～8月20日（水）
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細

体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話学内2574）に照会してください。

（学生部）

「白浜海の家」の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり通年開設していますので、ご利用ください。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた「京大白浜水族館」があり、さらに近くには「南方熊楠記念館」もあります。
(いずれも有料)

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関) JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車
3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 30名
6. 所要経費 1人1泊 使用料130円、ほかに食費等実費
7. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話学内2574）に照会してください。

(学生部)

体育館附設プールの夏季利用

本学の学生及び教職員は、体育館附設プールを下記により利用できますので、お知らせします。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課（西部構内総合体育館内、電話学内2590）に照会してください。

記

期間 7月1日（火）～8月31日（日）（この間の40日程度）

時間 正午から午後2時まで

(注意)

1. 利用に際しては、必ず職員証または学生証を呈示してください。
2. 都合により利用をお断りする日があります。

(学生部)